

縣井

かつてこの近くに縣宮神社があり、そこからこの井戸の名前がつけられました。縣井という名は、すでに十世紀には、著名な『大和物語』や、二番目の勅撰和歌集である『後撰和歌集』といった、重要な文学作品に現れています。

和歌を詠むことは宮廷やその周辺に暮らす貴族達の文化生活において、中心的な役割を果たしていました。後鳥羽院は、井戸の優雅さと、その近くに咲く黄色い山吹の花の美しさを、次のような歌に描きだしています。:

蛙なく県の井戸に春暮れて散りやしぬらむ山吹の花

(続後撰和歌集 No.155)